



ニュースレター 明治大学史 No.19

目次

- 1 研究会報告 2 受贈刊行物一覧(2022年4月～8月) 3 おもな新蔵資料紹介 4 大学史資料センター日誌抄(2022年1月～8月)

1 研究会報告

(1) 創立150周年事業準備会(前創立者研究会)

本(2022)年4月から、従来の「創立者研究会」を組織替えして、「創立150周年事業準備会」を発足させた(研究代表 村上一博法学部教授〔センター所長〕)。旧「創立者研究会」では、創立者である岸本辰雄・宮城浩蔵・矢代操に関する研究を中心に、『明治大学小史(通史編・人物編)』・『明治大学の歴史』・『私学の誕生』・『明治大学140年小史』・『権利自由の誕生』などの刊行や各地での講演会の開催などを行ってきたが、今回新たに発足した会は、10年後の2031年(本学150周年)を見据えて、新たな資料発掘と研究成果の蓄積を図ることを狙いとしたものである。この事業の中核として、『白雲なびく遥かなる明大山脈』シリーズの構想を立ち上げ、昨(2021)年には、第一弾として、体育会に所属する全46部の沿革を纏めた『スポーツ編』を刊行した。本年度の上半期には、第二弾として、本学関係の判検事および弁護士(明治26年以前は代言人)50名の略歴と事績について纏めた『法曹編Ⅰ』、下半期には、第三弾として、本学に学んだアジア留学生を対象にした『アジア編』の刊行を予定している。(村上一博)

(2) 人権派弁護士研究会

第2期人権派弁護士研究会(研究代表 村上一博法学部教授〔センター所長〕)では、今年度上半期においても、コロナ禍のため、例年のような資料調査および研究会活動を実施することはできなかったが、昨年度、本学140周年記念事業の一環として行った、鵜澤總明弁護士(戦前から戦後にかけて、4期10年余りにわたり本学の総長を務めた)の生涯と弁護士活動をまとめた『鵜澤總明と明治大学』の刊行とシンポジウム(オンライン配信)の開催、鵜澤總明文庫の開設と

目録の作成を受けて、引き続き、鵜澤總明関係資料の収集に努めた。下半期には、コロナ禍で中座していた研究会活動を再開し、布施辰治・平出修などと並ぶ本学を代表する人権派弁護士である山崎今朝弥が発行した雑誌および叢書の収集やその内容分析を継続し(2018年10月に論創社から『山崎今朝弥——弁護士にして雑誌道楽』を刊行)、また資料復刻の可能性について模索する予定である。(村上一博)

(3) アジア留学生研究会

当研究会は、本学の100年を超えるアジア留学生受け入れの歴史を扱う研究班として2010(平成22)年に設立された。構成員は、代表の高田幸男のほか、センター所長の村上一博(法学部教授)、運営委員の李英美(商学部教授)、三田剛史(商学部准教授)、山下達也(文学部准教授)、研究調査員の土屋光芳(名誉教授)、鳥居高(商学部教授)、鈴木将久(元政治経済学部教授、現東京大学教授)、事務局の阿部裕樹(センター職員)である。2019年度には李英美を代表とする科研プロジェクト「東アジア近代法学・関連諸科学ネットワークと人材育成」がスタートしたが、2020年2月以降、新型コロナウイルスの感染拡大により、国内外の調査ができない状態が続いている。

そのため2021年度は、国内外の資料の購入・収集、データベース構築作業、および研究員各自の分析作業を進めた。その成果として、高田「一九三〇年代における日中ジャーナリストの交流について—明治大学新聞高等研究科の初歩的考察—」(『近代東アジアと日本文化』所収)、同「戦前期明治大学と台湾人ジャーナリスト」(台湾文化協会百周年記念オンラインシンポジウムにおける発表)、同「近代中国新聞紙上の明治大学」(『大学史紀要』第28号)、土屋「陳羣研究の



覚書」(同上)、三田剛史「帰国前後の朱紹文」(『中国研究論叢』第21号)がある。

今後、コロナ禍の収束を待って韓国・台湾などのインタビュー・史料調査を再開する予定である。

(4) 財界人研究会

当研究会は2013(平成25)年に設置され、故秋谷紀男教授(明治大学政治経済学部)を中心に『明治大学小史人物編』(学文社、2011年)の「財界の人びと」にまとめられたような、実業界で活躍してこられた本学出身の企業家・経営者の足跡を解明してきた。2016年以降の構成員は、センター前所長の村上一博(法学部教授)、福井淳(大正大学文学部教授)、阿部裕樹(センター職員)と代表の白戸である。

2017年以降に調査対象とした人物は、セーレン会長川田達男氏(2017年10月にインタビュー、『大学史紀要』24号収録)、日本経済評論社元社長栗原哲也氏(2018年11月にインタビュー、『大学史紀要』25号収録)、小田急の創設者利光鶴松(2019年にご子孫の利光國男氏・剛氏にインタビュー)や、山下汽船(現商船三井に統合)創業者山下亀三郎、丸善石油(現コスモ石油)元社長宮森和夫等である。

今年度は利光鶴松の代言人時代・政治家時代・実業家時代を引き続き調査・研究するとともに、次年度にむけて山下亀三郎の調査、日産ディーゼル工業(現UDトラック)元社長大久保正二、市橋保治郎(福井銀行創設者)等についても継続して調査を進める予定である。(白戸伸一)

(5) 文学者研究会

当研究会では2017年の設置以来、明治大学に関係する文学者や評論家を中心に研究を行っている。構成員は代表の富澤成實のほか、松下浩幸委員(農学部教授)、吉田悦志研究調査員(名誉教授)、村松玄太室員(学術・社会連携部博物館事務室、現在は教務事務部情報コミュニケーション学部事務室)である。これまでおもに、本学の卒業生である作詞家・作家阿久悠や小説家・子母澤寛、本学駿河台校舎がおかれている千代田区と日本近代文学の関わりについて研究を進めてきた。

2021年度のおもな活動報告・研究成果は、つぎのとおりである。本学阿久悠記念館は2022年10月に開館10周年を迎えるが、これに関わり「ヒットメーカー——阿久悠“詞”と“歌”の世界」と題する記念イベントを、2022年3月9日に同記念館で開催した。作曲家の都倉俊一氏、前阿久悠記念館運営責任者の吉田悦志本学名誉教授、阿久悠の令息・深田太郎氏によるトークイベントを行った。

また、明治大学史資料センター『大学史紀要』第27号(2021・3)に発表した、富澤成實「阿久悠日記に関する

一考察——志賀直哉を読む一九八六年の阿久悠をめぐる——」や、明治大学史資料センターのホームページに連載中の「大学史リレーコラム 白雲なびく～遙かなる明大山脈～」に発表した、富澤成實「阿久悠「時代おくれ」のアイロニー」(2022・1)、2018年10月20日北海道石狩市厚田で開催された「子母澤寛没後50年「厚田ふるさと平和・文学賞」第3回シンポジウム」での講演をもとに執筆した、富澤成實「志賀直哉『網走まで』を読む——「網走」という場所をめぐる——」(『明治大学教養論集』通巻557、2021・9)がある。

2022年度は、科研費・基盤研究(C)に採択された「宮城の街、旧麹町・神田区における文学言説を用いた近代都市風景氏の構築」(研究代表者:松下浩幸委員、研究分担者:富澤成實および村松玄太前室員、研究協力者:吉田悦志研究調査員)の取り組みの開始として、関連作品文献収集やリスト作成や時代・場所・作家別のデータベースを構築し、千代田図書館や日比谷図書館、東京都立中央図書館などの調査を実施する予定である。他に、コロナ禍の収束後には、北海道や子母澤寛の関係先の調査などを行う計画である。

(6) 三木資料研究会

2022年度から科研費助成対象となったことで、5月23日に今後の研究方針について話し合いを持った。その結果、新型コロナウイルスの感染症の蔓延状況等に鑑み、場合によっては研究期間を延長することを含め、以下のことを確認した。

1 海外調査について

海外渡航することが隔離措置等のために困難であることから、当面は、メンバーの一員である信夫隆司教授が米国フォード大統領図書館で集めた資料を分析することとした。今後については、実際に渡航して調査が開始できるようになるまで、米国公文書館に対象を絞り、業者に資料収集を依頼することを決定した。

2 国内調査について

本学が所蔵するもの以外に関しては、外務省外交史料館や国会図書館憲政資料室所蔵の資料を調査することとした。

3 研究について

本研究会に近い問題関心を持つ研究者を招いてメンバー間の認識の共通化を図るとともに、研究テーマの精緻化を図る。

こうした方針に基づいて、今後の研究会を開催する予定である。

(7) キャンパス史研究会

キャンパス史研究会は、各キャンパスが立地している土地に刻まれた歴史とキャンパスの歩みを記録するために設置された。2020年度から和泉キャンパスを手始めに調査と研究を実施する予定であったが、ちょうど新型コロナウイルス感

染症の度重なる蔓延によって、現在までのところは十分な活動ができていない。

しかし、状況を見ながら、各キャンパスのフィールドワークと関係資料の収集に努めていこうと考えている。今後の課題としては、まず、和泉については、江戸時代まで遡ってキャンパス以前の歴史資料の調査・収集とキャンパス設置後の建

物の変遷などを明らかにするつもりである。そして、その次には、生田でも新しい校舎の建設とキャンパスの再整備が予定されており、農地として利用されていた昭和初期以降、日本高等拓植学校、陸軍登戸研究所、慶應義塾大学登戸仮校舎、そして明治大学時代の校舎の変遷に至る歴史を明らかにしたいと考えている。
(山田朗)

2 受贈刊行物一覧（2022年4月～8月分）

受贈機関	受贈資料
東京経済大学史料室	『東京経済大学百二十年史資料編』第2巻
学校法人大阪女学院教育研究センター	『大阪女学院のキリスト教教育』
横浜市史料室	『横浜市史料室紀要』第12号、「横浜市史料室報告書」令和3年度、「市史通信」第43号、第44号
青山学院史研究所	『青山学院 近現代史研究』第1号
玉川大学教育博物館	『玉川大学教育博物館紀要』第19号
神戸女学院史料室	『学院史料』第35号、「学報」第192号、第193号、194号
女子美術大学歴史資料室	「女子美術大学歴史資料室ニュースレター」第15号
桜美林学園学園史編集委員会	『学園史研究』第2号
九州大学大学文書館	『九州大学大学史料叢書』第28輯、「九州大学大学文書館ニュース」第45号
栃木県立文書館	『研究紀要』第26号、「文書館だより」第64号
明治学院歴史資料館	『明治学院歴史資料館資料集』第18集、「明治学院歴史資料館」No.13
南山大学学長室	『南山大学七十五年史』（デジタルブック）
旧制高等学校記念館	「記念館だより」第86号、第87号
愛知大学東亜同文書院大学記念センター	『同文書院記念報』第30号、「東亜同文書院記念基金会ニュース」第21・22合併号
大阪公立大学大学史料室	『恒藤記念室叢書』9、「大学史料室ニュース」第26号
富山大学アーカイブズ事務局	「富山大学アーカイブズ・ニュースレター」第9号、富山大学歴史マップ
早稲田大学歴史館 東伏見アーカイブズ（旧大学史料センター）	『早稲田大学史記要』第53巻
沖縄県公文書館指定管理者（公財）沖縄県文化振興会公文書管理課	「沖縄県公文書館研究紀要」第24号、「沖縄県公文書館だより ARCHIVES」第63号
松本市文書館	『松本市史研究—松本市文書館紀要—』第32号
フェリス女学院歴史資料館	『フェリス女学院百五十年史』上巻
立命館史料センター	『立命館 史料センター紀要』第5号
金沢市立玉川図書館近世史料館	『森下文庫目録』
帝京大学総合博物館	『帝京大学総合博物館館報』第4号
森正	『ある愚直な人道主義者の生涯 弁護士布施辰治の闘い』
大阪女学院教育研究センター	「大阪女学院教育研究センターNews Letter」第22号
同志社大学同志社社史資料センター	「同志社社史資料センター報」第18号
大原幽学記念館	『大原幽学記念館報告書』第8号
町田市立自由民権資料館	『自由民権』35号、「民権」34号「坂昌孝の生涯」
東洋英和女学院史料室委員会	「史料室だより」No. 98
福岡市総合博物館	『研究紀要』第22号
広島大学文書館	『秀敬関係文書目録』『新井俊一郎オーラル・ヒストリー』『内海紀雄関係文書目録』『卒業生証言記録集(1)』
京都大学大学文書館	『京都大学大学文書館研究紀要』第20号
皇學館大学	『伊勢と皇學館の140年』
印西市立木下交流の杜歴史資料センター市史編さん班	市史研究誌『印西の歴史』第13号
安曇野市文書館	『安曇野市文書館紀要』3号
学習院大学史料館	『学習院大学史料館紀要』第28号
名古屋大学大学文書資料室	『名古屋大学の歴史1871～2019』上・下
東海国立大学機構大学文書資料室	『東海国立大学機構大学文書資料室紀要』第30号、「東海国立大学機構大学文書資料室ニュース」第39号
中央大学広報室大学史料課	「中央大学大学史ニュース」Vol. 1
広島大学高等教育研究開発センター	『大学論集』第54集、『HIGHER EDUCATION FORUM』vol. 19、『RIHE International Seminar Reports』No. 25、「コリーグ」55号
国立公文書館	「国立公文書館ニュース」vol. 30

受贈機関	受贈資料
関西大学年史編集室	『学の実化』大学昇格・千里山学者開設100年記念誌
衆議院憲政記念館	「憲政だより」「時計塔」令和4年代替施設会館号」No. 031
筑波大学アーカイブズ	『筑波大学アーカイブズ年報』第5号
福澤諭吉記念慶應義塾史展示館	「Tempus」No. 2
古賀政男音楽博物館	「古賀政男音楽博物館・館報」第50号
慶應義塾福澤研究センター	「福澤研究センター通信」第36号、『慶應義塾150年史資料集』3
吉野作造記念館	『吉野作造研究』第18号、「吉野作造記念館だより」第30号
学校法人南山アーカイブズ	『アルケイア』第16号、『南山学園史料集』16、『南山アーカイブズニュース』第14号
一橋大学学園史料室	「一橋大学創立150年史準備室ニュースレター」No. 8
東京大空襲・戦災資料センター	「東京大空襲・戦災資料センター」No. 41
わだつみのこえ記念館	「記念館だより」No. 16
國學院大學研究開発推進機構	「國學院大學研究開発推進機構 機構ニュース」Vol. 16 No. 1
新潟県立文書館	『新潟県立文書館年報』第30号
日本女子大学	『成瀬記念館2022』No. 37
日本大学企画広報部広報課（大学史編集）	「日本大学大学史ニュース」第23号
青山学院資料センター	「Aoyama Gakuin Archives Letter」26号
佛教大学 学長室 広報課	「B-ism」No. 24
千代田区地域振興部文化振興課文化財係	「文化財ニュース」第27号
学校法人学習院 学習院アーカイブズ	「学習院アーカイブズ ニュースレター」第20号
大東文化歴史資料館（大東アーカイブズ）	「Ex Oriente（大東文化歴史資料館だより）」第32号

3 おもな新蔵資料紹介

村山誠吉氏（1943年卒）旧蔵資料

同氏旧蔵の写真アルバム、手記、受験票などの大学史資料からなる資料群。戦中・戦後の資料が多いが、保存状態がよく、明治大学史研究に資する貴重な資料群である。

鶴沢総明書簡

1908年12月 石田熊三郎宛

「法学博士鶴沢総明法律事務所用」箋使用

4 大学史資料センター日誌抄（2022年1月～8月）

3月9日（水）阿久悠記念館開館10周年記念イベント「ヒットメーカー 阿久悠「詞」と「歌」の世界」開催。

3月25日（金）明治大学付属明治高等学校・中学校歴史部員に大学史資料センター及び明治大学博物館バックヤードツアーを実施。

4月8日（金）全学共通総合講座「明治大学の歴史Ⅰ」を2019年度以来の対面授業で開講（和泉・生田・中野キャンパス）。

4月13日（水）大学院研究科間共通科目学際系総合研究

Aをオンライン形式で開講（駿河台キャンパス）

6月2日（木）全国大学史資料協議会東日本部会総会に参加。明治大学史資料センターは今年度より同協議会の事務局を担当。

6月14日（火）大学史展示室内で硬式野球部の東京六大学春季リーグ戦優勝記念展示開催（8月9日まで）。

8月25日（木）アジア留学生研究会、資料調査実施（～26日、福岡市）。